

認知症や心疾患、フレイルを主眼 予兆因子解析法確立へ

弘大とシスメックスが「健康講座」

弘前大学と、医療機器大手シスメックス（神戸市）は、新たに共同研究講座「健康長寿デザイン講座」を開設した。同社が持つ高い血液検査技術と、

岩木健診を活用し研究

弘前大が中心となっており、大規模健診「岩木健康増進プロジェクト」の超多項目健康チェックデータを併せて研究を進め、高齢者の健康に大きな影響を与える認知症、心疾患、フレイルを主眼に、生活習慣などの関連を調べるほか、疾患の予兆因子の解析法確立などを目指す。（西尾英）

シスメックスは認知症や心疾患における診断研究を進め、予防や早期発見、最適な治療の選択につながる検査方法の開発や実用化に取り組んでおり、製薬大手エーザイと共同で微量の血液からアルツハイマー病の原因となる脳内のたんぱく質「アミロイドβ（ベータ）」の蓄積状態を調べるバイオマーカーの上昇予兆因子の

解析を目指す。フレイルについては歩行や立ち上がり、の動画画像解析を行うことで、解析法の開発や有用性の検証を行い、フレイルリスクの予測モデル開発を目指す。24日は弘前大医学部で講座設置開設式が開かれ、福田眞作学長が「シスメックスのミッションは、COIが目指す方向性と合致す

る。岩木健診で得られる3000項目の健康データとシスメックスが測定する項目とを突き合わせることで新たな発見がある可能性を強く感じている」とあいさつした。シスメックスの吉田智一取締役常務執行役員COIは「市民、行政が協力して成し得た岩木健診の健康情報を基に医療を新しくしていく機会をいただけ光栄。認知症に関しては血液診断の研究開発を進めてきたが、幅広い世代、さまざまな生活環境の参加者が参

加する岩木健診の研究を組み合わせることで、今後のリスクを見る、モニタリングする新しい流れになるのでは」と期待。同社の佐藤利幸中央研究所長も「アミロイドベータは発症の20年以上前から蓄積が始まっている。20代から80代まで参加する岩木健診を通して、食事や睡眠などさまざまな関連を分析して発信していきたい」と意欲を示した。COI関連の共同研究講座は今回で20講座となった。



共同研究講座の設置開設式に臨む福田学長（左から2人目）、吉田取締役常務執行役員CTO（同3人目）ら